

Evening Entertainment

ベテラン制作勢がBSで活躍

今年、フジテレビ上層部の顔ぶれが大きく変わる。日枝久会長は代表権のない取締役相談役に退き、亀山千広社長はビーエスフジの社長になる。

「視聴率回復を託されながら道筋を作れず、業績が落ち込んだことに責任を痛感している」。亀山社長は、先月行われた最後の定例記者会見で、4年間の任期をこう振り返った。かつて若者の圧倒的な支持を得たフジだが、2011年に日本テレビに視聴率三冠王の座を奪われて以降、浮上のきっかけをつかめずにいる。

豪華出演者をそろえて今年4月にスタートしたドラマ「貴族探偵」も2話以降は視聴率が2桁に届かず、厳しい状況は変わらない。亀山社長は「短期的にドラマで話題を、中期的にバラエティーで視聴習慣を作り、長期的に報道・情報番組で

昨年7月にBSフジで放送された「復活オールスター家族対抗歌合戦」



往年の人情情報・バラエティー番組のプロデューサーが、BS各局で活躍している。「安心して見られる番組作り」に、ベテランたちが手腕を発揮しており、BSの視聴者にも広く受け入れられつつある。



好感度の高い高橋真麻(右から2人目)を司会に起用したBS日テレの「真麻のドドンパッ」

Media Monitor

フジテレビ 業績回復へ正念場

信頼を勝ち取る」と回復のシナリオを描いていたが、亀山社長はテレビドラマ、映画の「踊る大捜査線」シリーズを大ヒットさせた敏腕プロデューサー。一方、日枝会長は80年に42歳の若さで編成局長に就くと、楽しくなければ、テレビじゃない」をキャッチフレーズに、「オレたちひょうきん族」など、人気番組を次々に送り出した。だからこそ、2人の退任は一つの時代の終焉を思わせる。

日枝会長は読売新聞の取材に「空気を壊さなければ」と今回の人事の狙いを語っていた。「日枝氏の影響力は変わらないのでは」という幹部の声もあるが、思い切った人事に、社としての覚悟を感じる。新社長に就く宮内正喜・現ビーエスフジ社長ら、新経営陣にとっての正念場はすぐやってくる。(野口恵里花)

RADIO pick up

未来会議プロジェクト(ラジオ日経=後10.50)三井造船株式会社代表取締役社長・田中孝雄さんを迎える。鉱物やエネルギー分野での海洋資源開発を巡る現状や、食物・レジャー分野における海洋資源について、田中さんの考えや、今

後の開発に向けたアイデアなどを聞く。

ラジオ深夜便(NHK第1=後11.15)日本列島くらしのたよりは、山形県戸

沢村の話題を届ける。ないエッセーは、「ガラクタ、鳴らせば楽器①」と題して、打楽器奏者・山口ともがおくる。深夜0時台は、オトナの教養講座。「歴史」をテーマに、東京大学史料編纂所教授・山本博文さんが伝える。



浜口哲夫
プロデューサー

7月に第1弾、

BSフジは昨年、フジテレビの人気番組「オールスター家族対抗歌合戦」(1972〜86年)を特番で復活させた。芸能人と家族がチームになって歌を披露する構成のまま、プロデューサーの浜口哲夫(72)は昔と変わらない番組作りを心がけたという。

のはフジの名プロデューサー常田久仁子。浜口はアシスタントだったのが2年ほどして、別の番組に専念することになった常田の後を、20代で任された。

今年1月に第2弾を放送。今夏第3弾が予定されている。「家族が別々に暮らすなど、時代の変化に驚くが、情愛など、変わらない部分もある」。編集に頼らない撮影など、昔ながらの手法にこだわっている。

シニアの視聴が多いBSだが、ターゲットを絞っているわけではない。「僕はテレビってね、誰にでも見てもらいたいし、誰でも一緒に見ても楽しめるものではないといけないと思う」。テレビマンのプライドがかいま見えた。(野口恵里花)

BSフジ「オールスター家族対抗歌合戦」 昔ながらの手法で

BS日テレ「真麻のドドンパッ」

流行と心地よさ大切に

昨年、日本テレビからBS日テレに移ったエグゼクティブ・プロデューサーの尼崎昇(58)は、情報番組に携わった長年の経験を生かして「真麻のドドンパッ」(平日午前11時、再放送は平日午後3時)を手がけている。

日テレでも平日の帯番組「ルックルックこんにちは」幅広い世代に好感度が高いフリーアナウンサー・高橋真麻を司会に起用し、曜日ごとに目玉コーナーを設けた。火曜はタレントの橋本マナミが

「おもいっきりテレビ」などを担当し、主婦層から絶大な支持を集めた。BSは視聴者の年齢層が高いという。流行を詰め込み、レジャーランドのような番組を作れば、多くの人が面白がってくれるはずだ」と語る。

1985年に「ルック」でスタートした人気コーナー「突撃ノ隣の晩ごはん」は月曜に放送。ヨネスケが巨大なしゃもじを持って、夕飯時の家々をめぐる。独特のゆたかりとした雰囲気画面から伝わってくる。「地上波で取り組んできたことを生かしつつ、BSの番組に求められる心地よさも大切にしていきたい」(淵上えり子)



尼崎昇エグゼクティブ・プロデューサー

各地の温泉を訪ね、水曜は真麻の父・英樹が、俳優ならではの視点で日本史を講釈する。

という土壌も「地上波ほど熾烈な視聴率競争がないため、ベテランが肩の力を抜いて番組を作ることができる」という。その一方で、「若手クリエイターによる斬新な番組など、若い視聴者に訴える番組も必要だろう」と注文を付けた。

視聴者に安心感 さじ加減絶妙

BSの情報・バラエティー番組での、ベテランプロデューサーの起用について、同志社女子大の影山貴彦教授(メディアエンターテインメント論)は「テレビ視聴者が高齢化し、安心して見られ、かつ少しだけ新しい要素の入った番組が求められている。経験豊富なベテランはそのさじ加減が絶妙」と分析する。BS

Tonight

鶴瓶の家族に乾杯(NHK=後7.30)高橋一生と笑福亭鶴瓶が、静岡県葵区を旅する。静岡浅間神社を訪れた2人は、そこで見た風景に驚く。その後、一人旅になった高橋はコーヒー豆店を営む夫婦に、なれ初めを聞く。また、旅の最後に出会った家族と夜桜を見に行くことになる。

京都浪漫〜美と伝統を訪ねる〜(BS11=後8.00)京都在住の本上まなみ

が、京都の国宝や伝統工芸、職人、季節風物詩などを巡る。庭園デザイナー・鳥賀陽百合さんの案内で、戦国大名ゆかりの庭園を取り上げる。鞍馬・二ノ瀬にある白龍園は静かな空間で、こだわり抜かれた日本庭園を堪能できる。春・秋の特別公開で、一日に入園者を100人に限定している理由とは。

しゃべくり深イイ合体(日テレ系=後9.00)「人生が変わる1分間の深イイ話」と「しゃべくり007」の合体スペシャルをおくる。「しゃべくり007」は向井理、尾野真千子、新井浩文をゲストに迎える。

